

都道府県名 沖縄県

事業名	がん医療連携体制推進事業	事業区分	④
事業実施予定期間	平成29年4月1日 ～ 平成30年3月31日		
事業内容	<p>(1) がん情報提供体制の強化 がん患者やその家族等、情報取得者の視点を踏まえ、適切な情報選定及び有効な情報提供に関する取り組みや、地域のがん患者等の活動を支援する取り組みを実施した。</p> <p>○がん情報に関するセミナー（講演会）開催 市町村、保健医療関係者、がん患者等関係者の団体等と連携し、がん情報提供資料の活用推進や、がん患者支援に関する講演会を2回開催した。</p> <p>イベント名：がん専門医に学ぶ 医師とのコミュニケーション 講師：高橋秀徳（琉球大学医学部附属病院 地域医療部） 日時：平成29年9月9日（土）午後7時～9時 場所：宮古島市立城辺図書館 内容：講演会と相談会 参加数：聴講21人 相談1人</p> <p>イベント名：がんで後悔しないための「ヘルスリテラシー」ってなんだ？ 講師：中山和弘（聖路加国際大学 看護情報学） 日時：平成29年11月19日（日）午前11時30分～午後1時 場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室 内容：講演会 参加数：聴講65人</p> <p>(2) がん情報提供資料の作成等</p> <p><2018年版概要> 書名：地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック」2018年版 コンセプト：「がんと診断されたときからの行動支援」 部数：25,000部 原稿ページ：110ページ（概要版6ページ 本編104ページ 表周りのぞく） 配布先：111施設（拠点病院(3) 病院(34) 患者会(11) 市町村(41) その他(22)）</p> <p><2017年版からの主な変更点></p> <p>《より早いタイミングでの本誌活用に配慮》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんを受容できない診断直後などに配慮し、タイトルから【患者必携】を削除。 ・本編の概要版として、巻頭綴じ込み「がんと告げられたあなたへ」を新掲載。「すぐに役立つヒント&リスト」など、告知後から知ってほしい情報をひと目で確認できる誌面づくり。 ・治療開始前に役立つ情報として、各治療法や妊娠の可能性（妊孕性温存）を新掲載。 ・医療機関一覧を見直し、小児がんの診療施設を新掲載。診療に直結する情報に 		

重きを置き、適切な病院にたどり着くことを後押し。

《対面相談につなげるツールを意識》

《医師から情報提供しやすい内容を追加》

・治療方法などのコンテンツを新たに掲載。医師が説明とともに患者へ手渡すことを促進。

《生活者としての患者に役立つ情報の充実》

・【治療を続けながら働きたい】に分類していた「外見ケア」を、新掲載の「さまざまな身体的症状への対応」も含む新コンテンツ【自分らしく毎日を過ごしたい】に移動。
・「治療を続けながら働きたい」を【治療と仕事】に変え、「治療を受けながら働きたい」「仕事を辞めて治療に専念したい」の両コンテンツで展開。

《がんと生殖に関する情報を掲載》

・情報提供が十分でないとされる妊娠出産の可能性やセクシャル面での変化について「妊娠の可能性を残す（妊孕性温存療法）」と「がんとセクシャリティ」を新掲載。

ア 資材の内容検討

がん相談員、医療従事者、がん患者等関係者等から意見を聞きながら、資材の内容を検討し、関係機関へ時点修正の依頼を行った上で改定した。

○内容検討に関する主な取り組み

4月

- ・編集委員の選定に関する意見交換
- ・編集方針と編集作業部会の運用に関する意見交換

5月

- ・2018年版の改定案（たたき案）作成
- ・編集委員11人選出

6月

- ・編集委員招聘
- ・編集作業部会開催／議事要旨作成
- ・削除コンテンツ・追加コンテンツ選定

7月

- ・編集に関する意見交換
- ・編集業者確定
- ・骨子案作成／骨子案に関する意見聴取

イ 資材の印刷製本及び関係機関への発送

アの検討内容に基づき資材案を作成し、県の了解を得た後に印刷製本した。印刷製本後は、関係機関へ所定の部数を発送した。

○作成及び発送に関する主な取り組み

7月

- ・テキスト原稿校閲依頼・執筆依頼

8月

- ・テキスト原稿校閲・執筆
- ・戻り原稿校閲

9月

- ・テキスト原稿進捗確認
- ・戻り原稿校閲

10月

- ・原案確定

・戻り原稿校閲

1 1 月

・テキスト原稿全員確認

1 2 月

・テキスト原稿入稿
・戻り原稿校閲
・追加テキスト原稿入稿
・印刷製本に関する仕様確認
・印刷業者確定

1 月

・初稿出し → 初稿戻し

2 月

・2 稿出し → 2 稿戻し
・3 稿出し → 3 稿戻し
・念校 → デザイン入稿 → 色稿
・配布先確認 → 住所データ作成

3 月

・校了
・印刷製本
・住所データ最終確認 → 印刷業者に提出
・納品 → 発送

ウ 資材概要版の作成、印刷製本及び関係機関への発送

アの検討内容に基づき資材の概要版を作成し、県の了解を得た後に印刷製本した。印刷製本後は、関係機関へ所定の部数を発送した。

○概要版作成に関する主な取り組み

5 月

・概要版に関する意見交換

7 月

・概要版簡易見本作成
・綴じ込み加工を提案

9 月

・概要版に関する意見聴取

1 1 月

・修正案作成
・修正案について協議・意見交換
・テキスト原稿執筆

1 2 月

・テキスト原稿全員確認
・概要版テキスト原稿入稿

1 月

・初稿出し → 初稿戻し

2 月

・2 稿出し → 2 稿戻し
・3 稿出し → 3 稿戻し
・念校 → デザイン入稿 → 色稿
・配布先確認 → 送付データ作成

3 月

・校了
・印刷製本
・住所データ最終確認 → 印刷業者に提出
・納品 → 発送

(3) 資材普及の広報

ハンドブック普及のための広報として、当センター主催による各種講演会や研修会での配布、ラジオやポスターによる広報を行った。

<ラジオCM放送概要>

件名 : ラジオ20秒スポットCM
合計本数 : 20本 (午前1本/午後1本)
放送局 : FM沖縄 ラジオ沖縄
放送期間 : 2/5~2/9 (5日間) 3/1~3/7 (5日間)

<ポスター制作概要>

件名 : がんサポートハンドブック2018年版ポスター
規格 : A2
色・用紙 : 片面フルカラー マット紙
印刷部数 : 200部
納期 : 平成30年3月8日 (木)

事業実施における効果

(1) がん情報提供体制の強化における効果を以下に記す。

●がん情報に関するセミナー開催

<がん専門医に学ぶ 医師とのコミュニケーション>

前年度の石垣市立図書館に続き、2回目となる図書館でのイベント開催である。会場となった宮古島市立城辺図書館に、当センターが選書したがん関連図書が貸し出されたことをきっかけに、市中心部から離れた城辺地区での開催となった。がん関連図書の活用と絡めたイベント実施は、昨年度から検討していた計画のひとつであるが、市の中心部を離れての開催は他地域でも行ったことがなく、集客に不安があった。しかし図書館の全面的な協力のもと会場設営や広報が進められ、地域患者会の呼びかけもあり、定員20人に対し21人が来場して講演会を聴講した。

講演内容は、「抗がん剤治療をやめましょう」という場面での医師と患者の考え方のギャップを例に、クイズも交え、会場一体で学ぶ雰囲気の中進行した。納得してがん治療を進めるうえで患者さんの希望は重要で、インフォームド・コンセントを進めるためには、患者と医師がコミュニケーションを重ねることが求められること、そのために医師の考えを理解しようと努め、両者が同じ方向を見ながらがん治療と向き合うことが大事であることなどが伝えられ、『奏効率』など難しく感じられる医療用語(専門用語)もわかりやすく解説された。

このように、一般的ながんの講演会とは異なる内容に聴講者の反応は大きく、医師と患者それぞれの立場で視点が違うことがわかったという声が多数あった。また地元の新聞社とテレビ局が取材に訪れ、事後に報じられたことから、会場キャパシティ以上に本講演内容が伝わったと推測する。個別相談会は1名の利用にとどまった。

<がんで後悔しないための「ヘルスリテラシー」ってなんだ?>

まず、ヘルスリテラシー研究の第一人者である中山和弘教授に講師を務めていただけたことを、成果のひとつとして挙げたい。中山先生とは初見であったが、本講演について早々に快諾のお返事をくださり講演が実現した。沖縄ではまだまだ聞かれない分野での貴重なご講演に心より感謝申し上げたい。

当日の聴講者は65人であった。講演は、ヘルスリテラシーから意思決定支援への流れで進んだ。信頼できる情報を集めるヒントの「い/な/か/も/ち《出典:聖路加国際大学》」(いつ?)(なんのために?)(かいた人は?)(もとネタはなに?)(ちがう情報と比べた?)や、自分の価値観で選択肢を選ぶことができる「意思決定ガイド」の紹介は、聴講者にとって実践的かつ即効性のある情報提供であった。「健康を決める行為を『ヘルスリテラシー』という“言葉”で考えることが大事」であり、ヘルスリテラシーが低いと起こり得るパターンを「死にやすい。病気になりやすい。救急車をすぐ呼びやすい」と端的に説明し、自分の命にかかわることを自分の価値観に基づいて選択すべき、とした。

質疑応答では、会場から4人が発言した。「医療者が提供する情報に質のバラつきを感じる。患者が選びやすい情報を入手するためには?」との問いには、意思決定ガイドの表を活用することをすすめたい、との答えであった。予定時間を超過しても活発に意見が交わされ、講演会は幕を閉じた。

事務的な成果としては、限られたスタッフ数でありながらトラブルなく終えられたこと、会場のキャパシティに対し程よい集客数があったこと、である。とくに集客数については本事業初となる本島での開催であり広報規模に検討を重ねたが、結果としてチラシ配布と無料のイベント掲載にとどめたことが、会場に適した集客につながったものと評価している。

(2) がん情報提供資材（がんサポートハンドブック2018年版）の作成等の効果を以下に記す。

これまでがん相談員が中心となり制作を進めてきた「がんサポートハンドブック」であるが、2018年版は各分野から横断的に協力者を募り、編集員の顔ぶれを一新した。その結果、「がんと診断されたときからの行動支援」というコンセプトが生まれ、専門家の監修による制度紹介や、医師からの情報提供に相応しい治療方法などのコンテンツが追加された。

いくつかの取り組みのなかで、特に重要な位置付けとなったのが概要版である。今年度の本事業に新たに加わった概要版作成は、がん告知時に患者が必要とする情報をまとめたものであり、「がんと診断されたときからの行動支援」というコンセプトと大きく関係する。そのため、告知後の患者に対する情報提供の在り方や、誰もが読みやすい誌面づくりについて十分な議論を重ね、「すぐに役立つヒント&リスト」を中心に、がんサポートハンドブックの巻頭に綴じ込む本誌一体型の体裁が決定した。また、がんを受容しきれない患者が読むことも想定し、心の動揺や、診断後から治療開始までの不安な期間に寄り添う内容が追加された。書名から『患者必携』を削除したのも同様の理由で、このような診断間もない患者への配慮は、2018年版の特徴のひとつである。本誌一体型のメリットとしては、読者の目を引きやすいこと、本編との連動で情報を探しきれない読者のナビゲート役になること、配布の際に新たな設置場所の必要がないことなどが挙げられる。

本編ではコンセプトを反映し、がん相談支援センターを第1章に移動するなどページ構成の変更が多くあった。内容面では、生活者としての患者に役立つ情報が充実した。治療と仕事については、両立支援の情報掲載と合わせて、退職した場合の手続きを紹介するなど、患者の多様性に配慮した。療養期間中に現れる身体症状への対応は、看護師の視点からこのような情報掲載があると活用しやすいとの声から実現した。さらに、まだまだ情報提供が十分でない「がんと生殖」について、「妊娠の可能性を残す（生殖機能の温存）」と「がんとセクシャリティ」を同時掲載した。これらのリスクを知ることは、患者自身の治療選択やがんと共に人生を生きることに大きく影響すると考える。活用は次年度のため効果は未知数だが、新コンテンツの情報開示も含め、読者の反応を注視したい。

関係機関への発送は、印刷業者より行った。配送先については県と調整の上、住所データを作成し、印刷業者に提供した。納品当日は、配布総数が1,000以上の施設については直納し、その他施設については、印刷業者から期間中に順次発送した。

(3) 資材普及の広報の効果を以下に記す。

<ラジオCMについて>

平成30年2月～3月にかけて、合計10日間ラジオ局2社においてラジオCMを放送した。期間中はCMを聴取した人から、入手方法に関する問合せがあった。今年度は、前年に作成したCMナレーションの音源を使用したため、制作費がかかっていない。音源の汎用性の高さから実現したものであるが、資材のアピールを強化するために、次年度は新たなCM制作を検討したい。また放送時期の2月～3月は、冊子発行のタイミングとかけ離れているため、発行後の5月～6月に放送するなど、この点についても見直しが必要である。

なお費用対効果を考慮し、新聞出稿は行っていない。

<ポスター制作について>

資材の配布促進と、認知向上を目的に、掲示ポスターを制作した。納品後はがん情報提供資材の配布施設に発送した。施設によっては大量に資材が納品される場合もあるため、ポスターの制作納期は3月上旬に設定し、受け入れ準備の通知も兼ねて、刊行案内の文書とともにポスターを郵送した。

全てのがん診療に携わる医師や研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得することが目標です。

お問い合わせ CONTACT US プライバシーポリシー PRIVACY POLICY サイトマップ SITE MAP

トップページ > [患者さん・ご家族・県民の方へ](#) > [患者必携・地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック」](#)

[トップページ](#)

[医療関係者の方へ](#)

[患者さん・ご家族・県民の方へ](#)

[イベント情報](#)

[セカンドオピニオンについて](#)

[がん相談窓口](#)

[緩和ケア医療について](#)

[化学療法について](#)

[がん診療に関するQ&A](#)

[タウンミーティング](#)

[患者必携・地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック」](#)

[がん診療連携拠点病院の現況調査結果](#)

[クリティカルパス](#)

[うちな〜がん募金](#)

[緩和ケア研修会](#)

[がん患者会](#)

[患者サロン](#)

[がん情報ブースのご紹介](#)

[地域及び院内がん登録](#)

[沖縄県地域統括相談支援センター](#)

[沖縄県がん診療連携協議会](#)

[部会について](#)

[沖縄県在宅緩和ケアマップ](#)

[メディアドクターin沖縄](#)

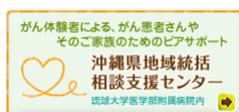
[リンク集](#)



[院内がん登録データからみる沖縄県のがん診療の現状](#)



[がん体験者による、がん患者さんやそのご家族のためのピアサポート](#)



患者必携・地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック」

患者必携とは？

がんと診断されて間もない患者さんの思いに寄り添い、支える事の助けとなることを目指して、「信頼できる情報で、わかりやすく、役にたつもの」をまとめたものです。

1. 自分らしい病気との向き合い方を教えていくために読む「がんになったら手にとるガイド」
2. 治療や療養生活について、聞いたり調べたりして理解したことを書き留めて整理する「わたしの療養手帳」
3. お住まいの地域の相談窓口などの情報をまとめた「地域の療養情報」



患者必携の主な対象は、がんと診断が伝えられた直後(比較的最近)の患者さんです。

患者必携3点セット



(普及新版)

(普及新版)

1. [がんになったら手にとるガイド](#)

2. [わたしの療養手帳](#)



3. [地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック」](#)

患者必携の役割

1. がんの治療経過がわかる
2. 大まかに自分のがんの状況と今後の見通しの参考になる
3. 医療者、介護や支援などの初期の理解の助けになる
4. 療養や今後の生活に関して調べる、知るべきことを認識する助けになる
5. 患者・家族と医療者、支援者が共に同じ冊子体を使って情報共有、情報交換することによって、患者さんにとって役立つ情報が蓄積され、行動に結びつけられる。

各冊子の概要についてはこちら

「がんになったら手にとるガイド」PDFはこちらからご確認いただけます。
(PDFをご覧になりたい方は画像をクリックしてください)



(普及新版)

「わたしの療養手帳」PDFはこちらからご確認いただけます。
(PDFをご覧になりたい方は画像をクリックしてください)



(普及新版)

アンケートにご協力ください
 地域の療養情報
 「おきなわがんサポートハンドブック」
 についてのアンケートにご協力ください

患者さん向けイベント情報

[イベント一覧](#)

医療関係者向けイベント情報

[イベント一覧](#)

お役立ちリスト List

沖縄県がん診療連携拠点病院

沖縄県セカンドオピニオン実施医療機関リスト

がん医療に関する一般市民向け講演会の開催をのぞくの方へ

がん医療に関する医療者向け講演会の開催をのぞくの方へ

詳しくはこちら → [国立がん研究センター がん情報サービス ホームページ](#) :

<http://ganjoho.jp/public/index.html>

地域の療養情報 「おきなわがんサポートハンドブック」(2018年版) 2018年発行

PDFはこちらからご確認いただけます。
 (一括してPDFをご覧になりたい方は左画像をクリックしてください)



<概要版>

巻頭綴じ込み がんと告げられたあなたへ (PDF [全6面](#))

落ちこもりは自然なこと

がんと言われたとき、すぐに役立つヒント&リスト

診断から治療までのながれ

<本編>

表紙 ([PDF](#))

がんや療養生活について詳しく知るには・本扉 (PDF [P0-P1](#))

はじめに (PDF [P2-P3](#))

もくじ (PDF [P4-P7 P8](#))

第1部 納得して治療を受けたい (第1部 扉 PDF [P9](#)) (PDF [P10-P11](#))

1. がんについて相談したい (第1部 第1章 PDF [P12-P15](#))

(1)がん相談支援センター

(2)沖縄県医療安全相談センター

【私を支えてくれたもの】

2. 治療について知る (第1部 第2章 PDF [P16-P21](#))

(1)がん治療と療養の過程(ライフコース)

(2)標準治療と科学的根拠(エビデンス)

(3)臨床試験

(4)その他の治療(科学的根拠を有する免疫療法/ゲノム医療)

(5)補完代替療法

(6)妊娠の可能性を残す(生殖機能の温存)

3. 情報を集める (第1部 第3章 PDF [P22-P27](#))

(1)病名、性質、病期

(2)主治医の説明を聞く

(3)セカンドオピニオン

(4)セカンドオピニオン実施施設

(5)書籍とインターネットで情報をさがす

4. 県内の医療体制 (第1部 第4章 PDF [P28-P33 P34](#))

(1)がん診療連携拠点病院および地域がん診療病院

(2)がん診療を行っている専門医療機関

(3)希少がんと小児がんの診療病院

(4)がん診療を行っている沖縄県内の医療機関

(5)離島とがん ~通院治療の選択~

【緩和ケア ~痛みを和らげる治療について~】

第2部 よりよい療養生活をおくために (第2部 扉 PDF [P35](#)) (PDF [P36-P37](#))

1. 痛さやつらさを和らげたい (第2部 第1章 PDF [P38-P41](#))

(1)緩和ケア外来・緩和ケア病棟(ホスピス)

(2)がんの終末期医療を担う医療機関

(3)がん終末期患者の在宅療養の相談

(4)グリーフケア

2. 同じ病気の方の話を聞いてみたい (第2部 第2章 PDF [P42-P51](#))

(1)患者会

(2)患者支援団体

(3)患者サロン

(4)沖縄県地域統括相談支援センター(がんピアサポート相談室)

【闘病仲間】

3. 自分らしく毎日過ごしたい (第2部 第3章 PDF [P52-P55](#))

(1)外見ケア

(2)さまざまな身体的症状への対応

(3)がんとセクシャリティ

【がん治療と向き合う】

4. 自宅で療養生活を続けたい (第2部 第4章 PDF [P56-P59](#))

(1)訪問診療

(2)訪問看護

(3)介護保険

(4)福祉用具・介護用品の貸与

(5)介護タクシー

(6)高齢者の相談窓口(地域包括支援センター)

(7)ファミリーサポートセンター事業

5. 子どもの療養を支えたい (第2部 第5章 PDF [P60-P63](#) [P64](#))

- (1) 入院中の教育支援、復学支援
- (2) ファミリーハウス
- (3) 入院中のきょうだい支援
- (4) 退院後およびAYA世代に関する相談
- (5) 養育支援訪問事業
- (6) 一時預かり事業、病児・病後児保育事業

第3部 お金のことについて (第3部 扉 PDF [P65](#)) (PDF [P66-P67](#))

1. 医療費の負担を減らしたい (第3部 第1章 PDF [P68-P75](#) [P76](#))

- (1) 高額療養費制度
- (2) 高額療養費限度額適用認定証
- (3) 標準負担額減額認定証
- (4) 高額療養費貸付制度
- (5) 高額医療・高額介護合算制度
- (6) 確定申告による医療費等の控除
- (7) その他の制度

2. 治療を受けながら働きたい (第3部 第2章 PDF [P77](#) [P78-P81](#))

【自分の病気を子どもに伝える】

- (1) 労働問題全般についての相談
- (2) 治療と仕事の両立支援
- (3) 生活から就職までの総合相談
- (4) 医療機関での就労相談
- (5) 女性の就業相談、仕事と子育ての両立などの相談
- (6) 働くがん患者の支援団体、冊子

3. 仕事を辞めて治療に専念したい (第3部 第3章 PDF [P82-P83](#))

- (1) 退職に伴う健康保険の変更
- (2) 失業手当(基本手当)の受給延長

4. 家庭の状況に合う支援を受けたい (第3部 第4章 PDF [P84-P85](#) [P86](#))

- (1) 傷病手当金
- (2) ひとり親家庭等医療費助成制度
- (3) 一部負担金の減免制度
- (4) 生活保護
- (5) 生活福祉資金貸付制度

5. 離島に住む人向けの制度を知りたい (第3部 第5章 PDF [P87](#))

- (1) がん治療の渡航費助成
- (2) 離島・へき地のがん患者等の宿泊支援

6. 障害についての支援を受けたい (第3部 第6章 PDF [P88-P89](#))

- (1) 障害年金
- (2) 障害手当金(厚生年金)
- (3) 身体障害者手帳

7. 子ども向けの制度を知りたい (第3部 第7章 PDF [P90-91](#) [P92](#))

- (1) 小児慢性特定疾病医療費助成制度
- (2) 特別児童扶養手当
- (3) 障害児福祉手当
- (4) その他の制度

問い合わせ一覧 (扉 PDF [P93](#)) (PDF [P94-P97](#))

- 役所・役場一覧
- 年金事務所一覧
- 各医療保険窓口
- 税務署一覧
- 福祉事務所一覧

ノート欄

- 私のメモ(質問したいこと、伝えたいこと) (PDF [P98-P99](#))
- 面談にのぞむときの質問集 (PDF [P100-P101](#) [P102](#))

あとがき 編集委員 編集協力 (PDF [P103](#))

奥付 がんの冊子 (PDF [P104-105](#))

地域の療養情報 「おきなわがんサポートハンドブック」(2017年版) 2017年発行

お知らせ: 高額療養費制度の見直しに伴うページ更新について(2017年8月)

高額療養費制度は、平成29年8月から70歳以上の方の上限額が変わります。おきなわがんサポートハンドブックでは、該当ページを更新しました。最新の情報は、PDFをダウンロードしてお使いください。

第3部 お金のことについて

1. 医療費の負担を減らしたい

- (1) 高額医療費制度(第3章 第1部 PDF [P68-P69](#) [P70](#))

PDFはこちらからご確認いただけます。

(一括してPDFをご覧になりたい方は左画像をクリックしてください)